静中静高同窓会報

第186号

【次は2027年５月】

■発行所　〒420―8608 静岡市葵区長谷町66 静岡高校内 静中静高同窓会 TEL 054―246―2256 メール（shizuko-dosokai@po4.across.or.jp）
■発行人　大日三協㈱
■印刷所　同窓会報編集委員会
〒420―0922 静岡市葵区流通センター12番1号 電話 054―263―2435

創立150周年記念事業

国際化プログラム基金創設

在校生の英国研修支援

目標１億円　募金協力呼び掛け

静中静高創立150周年記念事業実行委員会は、記念事業のテーマの一つとして在校生を対象に海外研修を中心とした国際化事業の推進を検討してきた。具体的には「静岡高校国際化プログラム運用基金」を創設し、志ある在校生の挑戦を支えていく。記念事業については11月21日開催の同窓会本年度総会に議案として提案し承認を得る手順で進めている。



初の理事懇談会が開かれ、募金活動への各期の熱い取り組みに期待が寄せられた

＝「静岡高校国際化プログラム運用基金」設立趣意書の全文、織田敦校長の英国視察報告2面へ

現在、検討中の海外研修は、英国のオックスフォードとロンドンに約10日間滞在して学ぶプラン。世界の歴史と文化に直接触れる体験をすることで、卬高の精神を体現する人材の育成に繋げる狙いがある。

第１回として来年夏、生徒26人、引率教員１人の派遣を予定している。今夏、「教育応援基金」を活用する。

織田敦校長が事前視察のため訪英している。費用のうち１人当たり20万円程度を基金から補助し、記念事業としては年間600万円規模となる。

基金は１億円の確保を目標にして、毎年約１０００万円規模で10年間、在校生の海外留学や研修、国際交流と学習環境の充実を支援する。

基金の寄付募集期間は今年８月から２０２８年12月と定め、既に募金活動に着手している。寄付の受付窓口として静岡県が新設した「教育応援基金」を活用する。

同基金は、高校生の海外留学や海外事業所でのインターン活動を支援する「ふじのくにグローバル人材育成基金」に特定の学校に寄付できる仕組みを加えて名称を変え、本年度始まった。個人はふるさと納税、県内企業は一般寄付、県外企業は企業版ふるさと納税による優遇措置が受けられる。一方、この制度では在校生の保護者の寄付は受け付けない。

同実行委はこの国際化事業を10年間で終了するのではなく、静高の国際化を支える取り組みとして長く継続することを目指している。基金への寄付募集はその第一歩となるもので、多くの卒業生、関係企業、一般企業の協力を求めている。

創立150周年の記念事業について実行委は、国際化事業を柱として全面展開するとともに、学習環境の整備・充実・教室のプロジェクター更新、校旗の新調、静高史編纂、記念式典と懇親会の開催などを計画。これらの事業案と予算案は本年度の総会で承認される見通しだ。

（事務局）

初理事懇「募金に奮起」

61期から135期の各期理事と各支部長・役員計48人が参集して８月22日、初の「理事懇談会」が開かれた。松村友吉会長（88期）は冒頭、全国的に学校を後援するPTAの姿が変わりつつある今、同窓会の役割が増していると述べ、「幅広い年代間の繋がりをめざし毎年理事懇談会を計画したい」と挨拶した。

次に広報・募金担当の柴山貴伸副会長（107期）が、150周年募金の説明と協力依頼を述べた。同窓会は学校側と150周年記念事業の検討を進めた結果、生徒の英国オックスフォード研修への援助を事業の柱とすることが固まり、総額１億円を目標に募金活動に着手する。寄付の窓口は県の「教育応援基金」を活用する。

記念事業は本年度総会での承認を見込んでいる。

続いて乾杯に移り福地益人氏（61期）から、寄付について各期の奮起に期待する旨の熱い思いが語られた。

会の進行中には「静岡高校キャリアデザインツアー」の紹介スライドが上映され、進路課長の久保田好則教諭（110期）から毎年の支援に対するお礼の言葉が伝えられた。会の締めとして、岡村幸彦副会長（93期）指揮による校歌斉唱が行われた。

杉山順一関東支部長（84期）の閉会の言葉の中では、英国研修の下見中で不在の織田敦校長からの協力依頼の言葉も伝えられた。次年度の理事懇談会は日時場所を早めに告知し、多数の若い年代の理事の参加を目指したい。（事務局）

事務局から

次号原稿・写真３月末締め切り

「静中静高同窓会報」に原稿・写真をお寄せ頂きありがとうございます。

次号187号は来年５月発行予定で、原稿・写真の締め切りは来年３月末日です。原稿は１行12字詰めで、同窓会・同期会報告は45行、その他の原稿は60行以内でお願いします。写真には必ず説明を付けて下さい。原稿と写真はメール（題字下にアドレス掲載）、郵便などで同窓会事務局まで。原稿の手直し、見出し付けは編集委員会が行います。

同窓会総会 11月21日

主幹事104期 講演、懇親会も

令和８年度同窓会総会は11月21日午後３時から、静岡市のＪＲ静岡駅北口前、グランディエールブケトーカイ４階（葵タワー内）で開催します。議事に続いて104期の会社代表取締役、小林正樹氏による記念講演を行い、懇親会は同５時からです。主幹事を104期、副幹事を105期、114期が務めます。皆さまには事前申し込みをお願いし、協力に感謝します。

記念講演講師の小林氏は、株式会社オプト（現株式会社デジタルホールディングス）を創業メンバーの一人として起業。同社は一時は倒産の危機に見舞われながらもＶ字回復を成し遂げ、２００４年にジャスダック上場を果たしました。その際に小林氏は、取締役ＣＦＯとして上場準備責任者を務めました。デジタルホールディングス社は従業員９００人超、年商１３０億円超（２０２５年12月時点）に成長するまでに至っています。

オプト社の飛躍の立役者となった小林氏は、２００８年に同社を退社し、同年株式会社イルカを創業。折りたたみ自転車メーカーというまったくの異業種において「小さくてもグローバル」を掲げ、製品の開発から新規市場の開拓まで果敢にチャレンジ。10年をかけて開発した「ｉｒｕｋａ」は現在世界17カ国に販売網を広げています。記念講演は「連続起業体験記」と題し、同氏の二度の起業の成功までの道のりと秘けつを紹介します。

懇親会では、歳月を経てもいつまでも絆は変わらない同級生や先輩、後輩との再会、交流の場としての時間を楽しんで下さい。

詳しくは同窓会ホームページ「総会・支部の案内」をご覧ください。開催に関する問い合わせは〈０７０－３６０２－７３３４〉（104期実行委員会事務局）へ。（104期実行委員会　濱村綾子）

◆同期会報告募集　同期会の原稿と写真をぜひ同窓会報にお寄せ下さい。コロナ禍が落ち着き、各期の集まりが増えています。その様子を会報に掲載したいと思います。原稿は１行12字詰めで45行以内、写真を付けて下さい。**静中静高同窓会報編集委員会**





「静岡高校国際化プログラム運用基金」設立趣意書

静中静高同窓生の皆様へ

静岡県立静岡高等学校は、前身である静岡中学校の創立以来、長い歴史の中で多くの人材を社会に送り出してまいりました。卒業生は各界で活躍し、地域社会はもとより日本、そして世界の発展に貢献しています。

本校の校訓は「卬高（こうこう）」です。高い志を持ち、自らを高め、社会に尽くす人物であれという願いがこの言葉に込められており、この精神は長い歴史の中で脈々と受け継がれてきました。また、自由闊達にして質実剛健という校風のもと、多くの先輩方が社会のさまざまな分野で活躍してこられました。

母校静岡高校は、２年後の２０２８年に創立150周年という大きな節目を迎えます。静岡高校で学ぶ若者たちの志と可能性を象徴するこの言葉には、大きな夢に向かって挑戦し、それを自らの力で実現していこうとする強い思いが込められています。

静中静高同窓会では、この志ある在校生の挑戦を支えるため、創立150周年記念事業として「静岡高校国際化プログラム運用基金」を創設することといたしました。本基金では、まず１億円を造成し、年間約１，０００万円規模で10年間にわたり在校生の海外留学・海外研修・国際交流活動への支援を中心に、あわせて学習環境の充実を図ることを想定しております。

現在計画している海外研修では、英国のオックスフォードおよびロンドンを訪問し、現地で約10日間滞在しながら学ぶ機会を設ける予定です。世界の歴史と文化に直接触れる経験は、卬高の精神を体現する人材の育成につながるものと考えております。本事業は、同窓生の皆さまのご支援によって実現するものです。

つきましては、本事業の趣旨をご理解いただき、母校静岡高校のさらなる発展と在校生の挑戦を支えるため、本基金へのご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

２０２６年８月

静中静高同窓会
会長　松村友吉（88期）

〈事業概要〉

・目的
本基金は、次の二つを目的として設立します。
①海外留学・海外研修・国際交流の支援
在校生が世界に挑戦し、国際的な視野を広げる機会を支援します。
②学習環境の充実
在校生の学びと挑戦を支えるため、必要な教育設備等の充実を図ります。

・基金目標額
１億円

・基金の位置づけ
本基金は、静岡高校の国際化を支える取り組みの第一段階として、まず最初の10年間を支える基金として設立するものです。今後も継続的に国際化プログラムを推進していくことを目指します。

・支援規模・支援期間
年間約１，０００万円
10年間

・研修内容（想定）
英国 オックスフォード・ロンドン　現地約10日間

・支援内容
海外研修・留学費用の一部（20万円程度）の支援、および教育設備等の学習環境の充実。

・事業実施主体
静岡県立静岡高等学校

・寄付の目安（複数口歓迎）
個人１口　１万円
企業１口　10万円

・寄付の方法
県教育委員会の「静岡県教育応援基金」の仕組み、および「静岡県版ふるさと納税制度」を活用した制度です。

①個人の方
静岡県教育応援基金制度HPから静岡高等学校を選択して申し込み。

②法人（団体）の方
静岡県教育応援基金制度HPから寄付申出書をダウンロードして申し込み。

③静岡県外に本社がある企業の方
静岡県企業版ふるさと納税HPから寄付申出書をダウンロードして申し込み。
よって申出書の２寄付の活用を希望する事業、Ⅱをチェックし、静岡高等学校指定と記載する。

・寄付募集期間
２０２６年８月～２０２８年12月

◇

〈Q&A〉

・税制上の優遇措置について
①個人の方
「ふるさと納税」制度により、個人住民税及び所得税の還付や軽減を受けることができます。
②法人（団体）の方
寄付金額の全額を損金算入し、法人税などの軽減を受けることができます。
③静岡県外に本社がある企業の方
「企業版ふるさと納税」制度により、通常の損金算入による軽減効果と税額控除を合わせ、税負担が寄付額の最大約９割軽減され、企業の実質負担は約１割となります。

・寄付証明書について
寄付をした場合、静岡県より寄付証明書が郵送されます。同窓会からのお礼状などはありません。

・静岡県企業版ふるさと納税
静岡県企業版ふるさと納税HPへはこちらから（静岡県外に本社がある企業の方）
https://www.pref.shizuoka.jp/shizuoka.jp/kensei/introduction/soshiki/kodomokyoiku/school/kyoiku/1003777/1079754/index.html

・在校生の保護者からの寄付について
在校生の保護者からの寄付は受け付けられません。
※地方財政法第４条の５（割当的寄付金等の禁止）に該当するおそれがあるため

・美術品等の寄付について
教育応援基金への受け入れは不可。

・遺贈、生前贈与について
遺贈、生前贈与については現金のみ寄付を申し出ることができます。
※事前に学校と打ち合わせ・調整が必要となります。

◇

〈本件に関する問い合わせ先〉
同窓会事務局
〒４２０-８６０８　静岡市葵区長谷町66番地　静岡県立静岡高等学校内
TEL&FAX　０５４-２４６-２２５６
（月・水・金曜日午前９時から午後４時受け付け）



織田校長、研修に向け英国視察

オックスフォード生徒に大きな刺激

同窓生に協力要請

150周年記念事業として令和９年度から実施予定の英国研修に向け、前年のこの夏、本校生を含む県立高校５校合同企画の英国研修に同行し、オックスフォード、ロンドンに行ってきました。オックスフォードは800年に及ぶ学問の府としての歴史を感じさせる、特別な場所だと実感しました。５校の生徒たちは語学学校で研修をしつつ、オックスフォードの街と文化を楽しんでいました。

Ⅱ写真はいずれもオックスフォードの風景

ロンドンへの遠足も素晴らしい経験でした。ロンドンでは私だけ別行動をし、同窓生、県人会の方々とお会いして、来年度本校の生徒が訪英した際に関わりを持っていただくようにお願いをしました。

今回学んだことを基に、本校の生徒にとって来年度以降の英国研修が特別な研修となるよう、関係者と連携を取り、計画を作成していきます。皆さまのご協力とご支援をお願いいたします。（校長　織田敦）







関東同窓会

77期から138期174人 総会に幅広く

懇親会 クイズ楽しむ

関東同窓会は7月4日、東京・日比谷の日本プレスセンターで、本年度の総会を開催しました。会場には77期から138期までの幅広い世代の174人が集いました。同窓会本部の本年度はわれわれ103期が幹事を務め、総会、講演会、懇親会を実施しました。

来賓は母校、本部、支部から6人を迎え、冒頭、織田敦校長から在校生の学校生活や活躍の様子を話して頂きました。同窓会本部の松村友吉会長（88期）からは、母校の創立150周年記念事業の話がありました。

議事に入り事業報告・決算報告・監査報告、活動計画・予算計画は賛成多数で承認、可決されました。

毎年恒例となっている野球部紹介では、野球部後援会の河村卓利会長（96期）と濱村綾子事務局長（104期）がスライドを使ってチームを紹介しました。

本年度の講演会は、トレーナーである山本義徳氏（103期）が「人生100年時代を迎えて～筋肉と栄養で手に入れる最高の健康～」をテーマに行いました。椅子を使って身体に適度な負荷をかける効果的なエクササイズがステージ上で実演紹介され、参加者も自席の椅子で実際にエクササイズを体験しました。

懇親会は、最年少期である138期の大村修子さんによる乾杯で始まりました。本年度の企画として「目指せ健康増進！山本義徳のウルトラクイズ」を実施しました。クイズは、グー・チョキ・パーで回答を選択し、解説をはさむ形式で行われ、最後まで勝ち残った10人全員に山本氏のサイン入り著書が賞品として、渡されました。

最後は、お決まりの「希望の歌」「逍遥歌」「校歌」を、応援指導部のOBによる指揮のもと、参加者が一円となり肩を組み、声を合わせ、会は終了しました。

来年度の幹事104期に無事にバトンを渡すことができました。関係者と同期の皆さん、ありがとうございました。（103期　山本数馬）





㊤関東同窓会の本年度総会に174人が参加㊦講演会で山本義徳氏がエクササイズを実演指導した

在校生の活躍に声援

本年度総会 台風で中止



歴史と重みのある静中静高同窓会関西支部旗

本年度総会は、6月28日に設立しました。初代会長は、わが国の心臓や胸部外科の先駆者である大阪大学小沢凱夫名誉教授（38期）です。

昭和48年といえば…静岡高校野球部が第55回全国高校野球選手権大会で準優勝を飾った特別の年です。静岡市内は歓喜に包まれていたと記憶しますが、甲子園お膝元の関西支部は、欣喜雀躍、狂喜乱舞だったと思います。

現在の関西支部は、5代目柴田尚会長（81期）のもと約300人を有する組織です。春夏の甲子園はもとより有志で春秋の東海大会へ応援に出かけることもあります。応援は野球だけではありません。「全国高校ギター・マンドリン音楽コンクール」（吹田市）に出場する後輩たちにも熱い声援を送ります。

軽快なフットワークが何よりの持ち味で、元気&和気あいあいとした関西支部です。

来年度の総会と懇親会は、暑さ対策として5月下旬の開催を予定しています。関西在住の方はもちろんのこと、関西におられる親族・知人がいれば、ぜひ関西支部までご連絡ください。shizukokansai@gmail.comお待ちしています。

（94期　鈴木裕二）

関西支部

同窓会・同期会

本年度関西支部総会は、6月27日に予定していましたが、ダブル台風7号・8号の影響で残念ながら中止としました。来賓として出席予定の同窓会本部、関東、中部支部の会長には大変迷惑をおかけしました。関西支部会員にとっても年に一度の集いができず、寂しい思いとなりました。

この機会に関西支部について簡単に紹介します。関西支部は、関東支部や中部支部よりも早く昭和48年6月28日に設立しました。初代会長は、わが国の心臓や胸部外科の先駆者である大阪大学小沢凱夫名誉教授（38期）です。

昭和48年といえば…静岡高校野球部が第55回全国高校野球選手権大会で準優勝を飾った特別の年です。静岡市内は歓喜に包まれていたと記憶しますが、甲子園お膝元の関西支部は、欣喜雀躍、狂喜乱舞だったと思います。

現在の関西支部は、5代目柴田尚会長（81期）のもと約300人を有する組織です。春夏の甲子園はもとより有志で春秋の東海大会へ応援に出かけることもあります。応援は野球だけではありません。「全国高校ギター・マンドリン音楽コンクール」（吹田市）に出場する後輩たちにも熱い声援を送ります。

軽快なフットワークが何よりの持ち味で、元気&和気あいあいとした関西支部です。関西在住の方はもちろんのこと、関西におられる親族・知人がいれば、ぜひ関西支部までご連絡ください。shizukokansai@gmail.comお待ちしています。

（94期　鈴木裕二）

86期

卒業55年に107人

86期卒業55周年同窓会が5月23日、静岡市のホテルグランヒルズ静岡で、107人が出席し開かれました。

本来は50周年の同窓会を計画していましたが、コロナの流行のために延期になり、待ちに待った同窓会でした。

秋本統一会長の挨拶、故人への黙祷、歴代会長への花束贈呈があり、記念講演へと進みました。

講演は、86期で現役で活躍中の宮地良樹さんによる「健康寿命延伸のために私たちが今できること」がテーマです。ポイントは「食事」「運動」「交わり」の3点でした。後期高齢者になろうとしているわれわれにとっては、まさに興味満載の内容でした。

クラス紹介は、近況報告や高校時代の思い出話などが出て懐かしいひと時でした。体育祭の仮装行列はどのクラスも思い出になっていることを改めて感じました。そして、野球部の報告が元キャプテンの浦田欽也さん中心にあり、写真とともに当時の活躍が蘇ってきました。

閉会では、長年同窓会に尽力して下さった竹内礼子さんに花束を贈呈しました。

最後はやはり校歌、逍遥歌です。元吹奏楽部の生演奏により、肩を組み合い静高時代に戻り声高らかに歌って会を締めました。

次回の同期会での再会を楽しみに。

（86期　梅原ちず子）





㊤卒業55周年の同期会に107人が参加した㊦全員で肩を組み校歌を斉唱

公式の同期会から気軽な集まりに形を変えて2年目。元気な30人が顔を見せ、気分はすぐに静高生に戻った

79期

衣替え2年目 楽しく気楽に

「健康で次回も」

79期の同期会は、懐かしい仲間と「楽しく、気楽に集う会」に衣替えして2年目を迎えました。青春を謳歌したころと異なり、年相応の気品を備えた姿や行動が感じられました。「昔の仲間はいいなあ」「すぐ昔にもどれる」。63年の時が無かったような会話がどこからも聞かれました。

会は恒例により、逝去した友に哀悼の意を宇都宮昭義君の尺八の調べで表しました。また乾杯の音頭を本名孝至君にお願いし、会を盛り上げました。

参加した友は30人（予定32人）で前回と同じでしたが、次回へ向けた新たな試みや呼びかけ方を考えたいとも思いました。

七夕は7月7日、織姫と彦星が会う日です。でも、7月9日は友と机を並べた「79期の会う日」。健康に留意して悔いの残らない日を過ごそう、というのが散会後の友の声でした。

（79期　清水督三）



起業したい！ 会社を設立したい！
同窓生を全面的に応援します。
https://www.m-mao.jp/
税理士法人 RASHINBAN 羅針盤
〒420-0061 静岡県静岡市葵区新富町 1-23-19
TEL：054-252-2532　FAX：054-252-2534
税理士・社会保険労務士　望月 重樹（105期・SWIMC31期）
著書のご案内
令和4年12月発行
令和5年9月発行

卒業30年記念 昼夜2部制で

112期

話しの師か 恩懐く

112期の卒業30周年を記念する同窓会を1月2日、静岡市で開催しました。今回はできるだけ多くの同期と再会できるよう、昼夜2部構成としました。

昼の部は母校の同窓会館で行い、48人が参加。ゲストとして三浦賀世、小島典子先生にも出席いただき、会は大いに盛り上がりました。先生方の、現役時代と変わらぬ軽妙なトークも健在で、懐かしく心温まるひとときとなりました。

夜の部のホテルグランヒルズ静岡には105人の岳南健児が集結しました。秋山浩一、井出博文、笠井義明、丹治正の各先生にも出席いただき、卒業から30年、改めてありがたいお話を伺うことができました。



遠くアメリカやブラジルから駆けつけた仲間もお



▶柔道部OB会の総会参加者

り、とめどなくあふれる会話は絶えることなく、予定していた2時間はほんの一瞬で過ぎてしまいました。再会を喜ぶにはあまりにも短く、名残惜しさを残しての会となりました。

私たちも今やアラフィフとなり、白髪や貫禄が増した人も少なくありません。老眼の進行とともに、時の流れと身体の変化を改めて実感する機会にもなりました。これからは、身体にも思わぬエラーが起こりやすい年代です。日ごろの体調管理と早めのケアを心掛け、卒業40周年の会でも、皆が元気な姿で再会できることを願っています。

今回、多くの皆さまから温かい支援と協賛を賜りました。心よりお礼申し上げます。

（112期　富野徳尋）

卒業30年記念の112期同窓会、夜の部には105人が参加した

柔道部OB会

次期会長に 山口高史氏

本年度柔道部OB会総会を6月27日、静岡市葵区で開催した。前回初参加の井口和也氏（80期）に加え、吉澤修一氏（83期）、渋谷孝之氏（87期）、玉井裕之氏（105期）も元気な姿を見せた。今回は杉山好毅氏（89期）が初参加だった。総会に先立ち物故者に黙祷を捧げた後、石村正美代表幹事（84期）の司会で総会を開会した。OB会規約により望月敏男会長（79期）が議長となり、望月会長による行事報告、青山敏一会計（80期）による会計報告、その他議案の審議が行われ、すべてが全会一致で承認された。

本年度は役員改選期で、会長職を3期6年間務めた望月氏が退任を表明した。このため、最重要議案である望月会長に代わる次期会長には山口高史現副会長（86期）が選出され、新体制へ移行した。

5年後は創立140周年という節目の年となるが、現役メンバーの現況は2年生2人に加え本年度新入生が2人（内1人が有段者）の合計4人という寂しい状況が続いている。少人数のために他校への出稽古による合同練習などを行って頑張っている現役生への物心両面にわたる支援継続のため、特に100期以降の皆さんにOB会活動への参加をお願いする次第です。また、現役生には同好会から『部活動』と認定される10人以上の人数確保を目指し『部』への再昇格を期待します。

（82期　岩本賢二）

先輩と交流、進路考える

サッカー部が関東遠征

サッカー部は毎年、夏休みを利用して関東遠征を実施している。各都県の進学校との練習試合や先輩方との交流会を通して、「真の文武両道」を追求することを目的としている。

練習試合では、かつて定期戦を行っていた県立浦和高校と対戦した。全国有数の進学校でありながら、文武両道を高いレベルで実践する浦和高校の3年生と対戦し、その迫力とひたむきな姿勢を文字どおり肌で感じることができた。

また、3日間にわたり毎晩開催された交流会には、OB会の協力により7人の先輩に参加いただいた。中村旭宏氏（112期）は、「価値を創り出す力」をテーマに講演。「価値を決めるのは相手である」「価値は問いの中にある」「立ち止まった場所にしか価値は生まれない」といったメッセージを通して、AI時代を生きる後輩たちへ熱いエールを送っていただいた。



先輩との交流会で講演を聴くサッカー部員

サッカーだけでなく、学びや将来の生き方についても多くの刺激を受けた3泊4日となった。前年度は全国高校サッカー選手権静岡県大会でベスト16を前に敗退したが、この遠征で得た経験を糧に、本年度はさらなる飛躍を遂げてくれることを期待したい。

交流会参加同窓生は次の通り（敬称略）。

大石秀哉（103期）、松原洋二郎（同）、中村旭宏（112期）、中川靖章（122期）、鈴木暢之（123期）、勝岡大貴（124期）、山本大輔（126期）（サッカー部顧問・110期　久保田好則）

記念の夏に大声援 新たなファン獲得

岳南球友会

全国優勝100年の今夏は、県大会準々決勝で思いがけない試合展開となり、エースと10番が力投し、11安打を放ったが、完敗した。4試合の大きな収穫は、応援指導部の目覚ましい応援だった。多数の応援部員が一般内野席を活動場所に含め、市民ファンや同窓生に応援を教え指揮した。初めての試みだ。応援指導部の活動が観衆と連帯した光景はアルプスの国民的行事にふさわしく、私たち高齢者は「これなら200年目を目指せる」と感極まった。

その中で、埼玉県出身在住で網膜の難病のため視力を失った一般ファン女性が福祉施設の支援を受け貯金をはたいて連泊応援し、耳で聴く岳南の球音（たまおと）に熱烈な声援を繰り返した。静中静高野球が広く人心に生きている証だ。

今、新たな挑戦が始まった。公立校の「普通の部活」は大切だが、それだけでは勝てない時代の闘いだ。本校野球の歴史的価値をいかに守り高めるか、学校と野球部選手スタッフを生かすには、家族・市民ファン・同窓生（野球部OB数百人含む）などの支援参画が必須だ。この秋も本校は「優勝100年」であり、新チーム選手は100年前に勝るとも劣らない能力と可能性を有する。復活は、幅広い参加に基づく岳南の総合力に懸かっている。（94期　松永啓）



全国優勝から100年目の夏の応援

会議・行事弁当の みのり
地域をつなぐ笑顔をつなぐお弁当
☎ 054-263-8139　URL:https://www.minori8139.com
〒422-8004
静岡市駿河区国吉田１丁目１－７　FAX 054-294-7731

静岡の美味しいもの ガッツ
岳南健児の大切なお集まりやちょっとした息抜きに
☎ 03-6273-8663
https://shizokaoden-guts.red/
@ShizokaOdenGuts
@shizoka_guts
〒169-0075
東京都新宿区高田馬場2-19-8 阿部ビル1階
代表 市川 徳二（112期）


バスケット新年初試合・新年会のご案内

昨年度に引き続き、母校体育館にて新年初試合を行います。OB・OGの皆さん、奮ってご参加ください。　バスケットボール部OB・OG会

令和9年1月2日（土）
12時～OB・OG対抗試合、13時30分～現役vsOB・OG戦、15時～現役激励会
※詳細はHPとOB・OG会報（12月中旬発行）にてご案内します。

◆OB・OG会Instagram始めました◆非公開です。フォローリクエストお待ちしております。

◆FacebookにOB・OG会グループを開設中◆

近況や大会情報などを掲載しています。Facebookご利用中のOB・OGの皆さん、ぜひグループにご参加ください。参加には既に参加しているメンバー（現在125名）からの招待が必要です。詳しくは下記事務局までメールでご連絡ください。

※グループメンバーだけが閲覧、書き込みができる設定で、メンバー以外は非公開のグループです

HP：がんばれ！静岡高校バスケットボール部
http://shizukobbc.wordpress.com/

OB・OG会報が届いてない方は、お名前・卒業期・ご住所を下記までご連絡ください。
shizukobbcobog@gmail.com　OB・OG会事務局

「甲子園」今年も遠く

静岡高野球部は各大会でコンスタントに力を発揮したが春、夏、秋ともに県大会準々決勝敗退と悔しい結果になった。新チームは春夏の経験者を中心に、秋の大会に臨んだものの及ばなかった。公式戦の成績を振り返った。（編集委員）

準々決勝で敗退

対加藤学園　11安打実らず

7月に行われた夏の選手権静岡大会。初戦の2回戦は鈴木颯が被安打2、13三振を奪って駿河総合に6―0の完封勝ち。打線も13安打を放ち期待が膨らんだ。

3回戦は島田商に七回コールド9―2。主将の名取内野手（3年）が切り込み隊長役を果たし、井村内野手（2年）、奥山内野手（3年）の上位打線が計7安打と好機を演出した。鈴木琥と高橋侑（2年）の投手リレーも決まった。

4回戦は静岡学園に延長十回タイブレーク3―2と苦戦。序盤に守りのミスで2点の先行を許し、中盤に追いついたが拙攻もあって勝ち越せず、もつれた。十回に無死満塁から四番平野の犠飛でサヨナラ勝ちした。



6回表、投手は鈴木颯（右）から鈴木琥にリレー（静岡新聞社提供）



6回表、加藤学園1死満塁で三塁打を打たれ力を落とす静高三塁手（左）（静岡新聞社提供）

秋の県大会も8強

秋の大会は、甲子園で熱戦が繰り広げられていた8月中旬に予選を開始。静高は1回戦で焼津水産を五回コールド14―1と圧倒して新しいスタートを飾った。

夏の大会を経験した右腕鈴木琥、左腕高橋侑のほか山川、長倉らの投手陣が細かくつなぎ、打線も夏に活躍した井村内野手、平野捕手、中川、山崎両外野手らが良く打った。

予選の代表決定戦は常葉大橋と対戦。鈴木琥が好投し、七回コールド7―0の完封勝ちで県大会出場を決めた。池田内野手が長打を放って夏の経験を生かした。さらに「上位校決定戦」では鈴木琥が東海大翔洋を完封し、1―0で予選3連勝、県大会へ弾みをつけた。

県大会は9月中旬から行われ、桐陽を八回コールド9―1、夏の覇者聖隷クリストファーを延長十一回4―3で破ったが、鬼門の準々決勝で日大三島に1―4の逆転負けを喫した。

春の県大会
準々決勝進出
知徳に1―4

春の大会は3月下旬に開幕。予選1回戦で島田に六回コールド10―0、幸先良いスタートを切った。続いて焼津中央を八回コールド7―0、常葉大橋を3―0といずれも完封し、県大会に進んだ。左腕エース鈴木颯（3年）と右腕鈴木琥（2年）が好投、平野捕手が本塁打を放つなど投打ともに順調だった。

県大会は2回戦から登場し、掛川東を八回コールド8―1で破って夏のシード権を確保した。

3回戦は加藤学園と大接戦。延長十二回、タイブレークの末6―5で勝利したが、夏の大会で同校に敗れる伏線となった。

準々決勝は投手陣を総動員したが、知徳に1―4の敗戦。夏の上位シードはならなかった。

指名打者やビデオ検証

制度大きく変わる

高校野球も指名打者（DH）制や、全国大会では審判の判定を映像で改めて見直す「ビデオ検証」が導入されるなど、大きく様変わりした。投手の負担軽減、試合時間の短縮、誤審の減少―とメリットは十分だろうが半面、〝投げて打って〟の躍動が見られなくなるのは寂しいと感じるオールドファンもいるという。

思わぬ乱調で初回に3点を献上。守りも乱れて中盤にも加点され、六回までに7失点。二回と五回に1点ずつを返したが、逆転はできなかった。名取、井村の一、二番で5安打など、相手を上回る11安打しながら打線がつながらず、残念な敗退となった。

優勝は聖隷クリストファー。2年連続2度目の夏甲子園出場を果たしたが、佐野日大（栃木）に0―1、初戦敗退だった。



長倉、服部、小田らが出場した昭和38年の夏の甲子園大会入場行進

静高野球部の記憶
3人の大天才とスターたち
79期野球部主将　上田尚亮氏
〈下〉

82期は服部（立教、近鉄）佐藤竹（日軽金、近鉄、巨人軍）と小田の3人がプロ。79期の有本が鷺宮製作所の監督の時、80期の故前田（立教）三菱長崎監督、81期の長倉（早稲田で主将）大昭和監督、3人の静高卒の監督が、ある大会に集合した。同窓3人も揃うのは珍しいそうです。3人ともセンスのある選手だった。

79期は新チームは監督、部長、マネージャーなしで発足しました。4月になってやっと監督が決まりました。そしてマネージャーに1年の故花森氏（元静岡県副知事）が就任してくれました。卒業後私が「ありがとう」と言ったら「感謝されたのは小田義人と上田さんだけ」と言ってました。この年から県立の高校は教師でなければ監督になれないことになりました。教育長の諏訪先生（元静高校長、元県副知事）が決めた。

野球も変わりました。大谷が野球を楽しくやる、ホント？野球は失敗するスポーツ、私の時代は結果に対し即ペナルティ。エラーをすれば即交代。フライを打てば怒鳴られる。今は選手を選んだ監督の責任。ゴロを打てが今はフライを打てです。ケチな野球でした。トーナメントの宿命か。甲子園かプロ選手の育成か…。メジャー挑戦か。パワーとスピードが欲しい。母校の選手は技術的には数段レベルアップしています。みんな優しそう、競争なんかないみたいです。

静岡高校野球部の後援会も100年を超えました。そんな高校は全国にもないそうです。市民も学校も熱心に応援してくれます。恵まれた野球部です。

私は授業中は寝てばかり。そんな記憶が一番強い高校生活でした。静高野球部生活はわずか2年半でした。しかし私の人格形成に一番影響があった2年半でした。



18期遠藤章二氏＝ジョージ・マサ

米国立公園指定の立役者
人生たどる映画 静岡で上映会

米国南部、グレート・スモーキー山脈の国立公園設立に大きく貢献した卒業生がいた。ジョージ・マサこと18期の遠藤章二氏。死後90年以上が経過した今も、現地で尊敬されている、という。米の映画監督ポール・ボーンスティール氏がそんな日本人に注目、彼の人生を明らかにするドキュメンタリー映画「ジョージ・マサ～よみがえる人生の物語～」を制作した。同監督の来日を機に９月、静岡市で映画が上映された。

遠藤氏は明治36年３月に18期生として静岡中学を卒業した。在学中は野球部に所属していた。


遠藤章二氏



その後、明治末期に移民として米国へ。西海岸で野球チームに所属、日系人野球のれい明期に活躍したと伝わる。１９１５年にノースカロライナ州アシュビルに定住した遠藤氏は、独学で写真の技術を身につけ山岳写真家として活動すると ともに、南部アパラチアの自然保護活動に携わりグレート・スモーキー山脈の国立公園指定に尽力した。

遠藤氏は手弁当で各峰の状況を確認するなど公園指定に必要な情報を調査、登山道の設定にも関わった。写真集に載ったジョージ・マサ名義の作品が大統領らの目に留まり、国立公園指定につながった、ともいわれる。

熱心に活動した遠藤氏だが、33年に病気のため48歳で死去。国立公園指定が決まる前年だった。

２０２４年に米国でその生涯をたどった書籍が出版され、映画は25年５月から全米で公開され話題となった。

静岡市での上映会にはボーンスティール監督も登壇、静高生らの質問に応じた。（編集委員）

進路講演会 OB講師10人

静高生が近い将来、職業選択を考える時に参考になる体験談を専門家から聴く本年度の「進路講演会」の講師が決まった。卒業生講師は10人。講演会は10月23日、12分野に別れて静高の各教室で開催。

講師は毎年、ＰＴＡ企画委員会が中心となり卒業生などから選考している。

今回の講師は次の通り。（敬称略、卒業生は期数を掲載）

①**国際・経済**　**入江堅治**（三井住友フィナンシャルグループ執行役員）
②**金融**　**望月一弘**（102期、三井住友海上キャピタル投資部パートナー）
③**医師**　**伊東志優**（128期、藤枝市立総合病院循環器内科）
④**地方公務**　**河口雅俊**（128期、静岡県庁健康福祉部）、**大石真美**（128期、静岡市役所保健衛生医療課）
⑤**メディア**　**野仲郁宏**（131期、気象キャスター）
⑥**弁護士**　**栗田泰吉**（119期、まどか法律事務所）
⑦**薬学**　**高田龍平**（111期、東大病院薬剤部教授・薬剤部長）
⑧**化学**　**黒川洵子**（静岡県立大薬学部教授）
⑨**アート・デザイン**　**糸乗健太郎**（アートディレクター）
⑩**建築**　**鳥居久保**（89期、針谷建築事務所会長）
⑪**農学**　**河合亮子**（102期、農水省関東農政局静岡県拠点地方参事官）
⑫**起業**　**岩田匡平**（119期、株式会社社代表取締役会長）

静高プール 老朽化で閉鎖

昭和3年建設 42年に全面改修


水泳部OBも参加したプール納め

ＯＢ・ＯＧの誰もがしぶきをあげた静高プールが、老朽化のため、今夏の使用をもって閉鎖となった。

現在のプールは、学校創立50周年の記念事業として昭和３年に建設されたものを全面改修して、昭和42年７月に完成。50×15メートル、７コースの鋼板製プールは、以来半世紀以上にわたり、夏の体育の授業で、そして水泳部の練習場として利用されてきた。同部はプール納めの練習をした。

しかし、近年はポンプ・濾過機が不調で水質の維持に支障が生じ、またプール底の水色の塗装がかなりの範囲で剥がれてざらついた鋼材が露わになるなど、劣化が顕著に。改修にはばく大な費用がかかることから、プールとしての使命を終えることになった。

今後、水泳部は中央体育館のプールを借りるなどして活動を継続。体育の授業から水泳は消え、プールは防火用水とグラウンド散水のための貯水槽として現状のまま残される。

（教諭・97期　清水敏之）


キャリアデザインツアーの交流会に参加した卒業生たち

在校生78人 キャリアデザインツアー
東京で大学、企業体験
先輩とも

「静高キャリアデザインツアー２０２６」を８月20、21日の２日間、実施したのである。本年度は78人の生徒が参加した。

初日は、東京女子医科大学付属足立医療センターを訪問した。久保田有一副院長（108期）をはじめとする８人の医療従事者の皆さんから、医療の現場や医療人として働くことの意義について学んだ。その後は住友商事のキャリア教育支援事業に参加し、企業で働くことや社会課題の解決に向き合う仕事について理解を深めた。夜には、17人の卒業生を招いて交流会を開催した。さまざまな分野で活躍する先輩方から、大学生活や現在の仕事、進路選択の際に考えたことなどを直接聞き、生徒たちは将来を考えた新しい世界が見えた、何度も読み返している、と好評でした。しかし寂しいことですが70期はあと数回で同窓会報から消えて行くことでしょう。

最近年賀状をやめる人が多いと話題になり、そこで70期同期会「令和９年紙上新年会」を行います。年賀のあいさつだけでなく、近況、夢など何でも結構です、左記にお寄せ下さい。締め切りは本年12月31日。

〒１８１－００１３三鷹市下連雀８－２－２－108
大村メール：shizuko70book@gmail.com〈mailto:shizuko70book@gmail.com〉

（70期　大村一彦）

路について考える機会を創出することを目的としたものである。本年度は78人の生徒が参加した。

初日は、東京女子医科大学付属足立医療センターを訪問した。久保田有一副院長（108期）をはじめとする８人の医療従事者の皆さんから、医療の現場や医療人として働くことの意義について学んだ。その後は住友商事のキャリア教育支援事業に参加し、企業で働くことや社会課題の解決に向き合う仕事について理解を深めた。夜には、17人の卒業生を招いて交流会を開催した。さまざまな分野で活躍する先輩方から、大学生活や現在の仕事、進路選択の際に考えたことなどを直接聞き、生徒たちは将来を考える上で多くの示唆を得ることができた。

２日目は東京大学を訪問した。宇野健司教授による模擬授業を受講したほか、東京大学の学生によるワークショップやキャンパスツアーに参加した。実際に大学で学ぶ学生との交流を通して、大学での学びや研究、学生生活をより具体的にイメージする機会となった。

今回のツアーでは、普段の学校生活だけでは得られない「本物との出会い」を大切にした。生徒からは、「進路についてもっと深く考えたい」「大学で何を学びたいのかを考えるきっかけになった」「将来の選択肢が広がった」といった感想が寄せられ、進路やキャリアについて主体的に考える契機となったことがうかがえた。

本企画の実施にあたっては、講師や交流会参加者の選定をはじめ、同窓会の皆さまに多大なる支援と協力をいただいた。静高を卒業した先輩方が、それぞれの分野で培った経験や知見を後輩たちに伝えてくださったことは、生徒にとって何ものにも代えがたい学びとなった。

静高の大きな財産は、世代を超えて受け継がれる人と人とのつながりである。今回のツアーを通して、生徒たちはそのつながりの温かさと力強さを実感することができた。今後も「先輩から後輩へ」という静高ならではの伝統を大切にしながら、生徒たちが自らの未来を主体的に切り拓いていくための機会を創出していきたい。

（教諭・110期　久保田好則）

祝詞、近況、夢… 次は紙上新年会
70期

70期の第２回紙上同期会が終わって、「もっと早くやるべきだった」と手紙をもらいました。

静岡に集まっての同期会では、もっとみんなと話したかった、時間が欲しかったと思ってきたとのこと。その点紙上同期会では、同期生の過去や現況、夢が語られ、これまで知らなかっ





部活、全国大会で大活躍

この夏、静高の部活は陸上競技部、工学部が全国優勝者を出したほか、弓道部が創部21年目で悲願の県総体初優勝を果たして全国大会に進出するなど大きな成果を挙げた。

陸上で全国優勝したのは、男子100㍍の松下碩斗君（２年）。記録は10秒27の東海高校新。松下選手は昨年の国スポで高１歴代２位の好記録で優勝し、一気に注目選手に躍り出た。静岡県勢の優勝は38年ぶり。

工学部では浅原璃子さん（２年）が、富士市の丸火自然公園周辺を会場に開催した第21回全国高校ARDF競技大会のFOX-O競技女子個人で優勝した。浅原さんは前年の同大会クラシック競技144MHz帯女子個人で優勝していて２年連続の快挙だった。FOX-O女子個人では近藤花音さん（２年）が６位。144MHz帯女子個人では浅原さんが３位、木田清樺さん（２年）７位、佐藤好さん（２年）８位と各部員が好成績を残した。ARDFはAmateur Radio Direction Findingの頭文字。

弓道部の県総体初優勝は女子団体。全国総体では６位に食い込んだ。メンバーは式守優莉子（３年）、植竹莉子（３年）、北川夏希（３年）、岡野歩美（２年）、遠藤綾（２年）、羽角友花（２年）の６人。静高に弓道場はなく、部員たちは静岡市中央体育館の同施設で練習を積み、創部以来の夢をつかんだ。

水泳部では全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会男子50㍍自由形に東海総体でJOC標準記録突破の高山胡心君（２年）が出場した。

連続出場の全国高校ギター・マンドリン音楽コンクールではマンドリン部が優良賞を受賞。クラシックギター部も努力賞を受けた。

また部活ではないが、御殿場市で開かれた馬場馬術の全日本ジュニア大会ヤングライダー（16－22歳）選手権で、２年の松岡健心君が３位入賞を果たした。

（編集委員）

工学部

アマ無線方向探査競技
浅原さん（２年）女子個人で優勝
２年連続

８月８～９日に富士市で開催された第21回全国高校ARDF競技大会で、２年浅原璃子さんがFOX-Oring女子個人の部で優勝、クラシック144MHz帯競技女子個人の部でも３位となった。

ARDF（アマチュア無線方向探査競技）は、無線電波を手掛かりに、送信機の位置を探し出す競技です。


２年連続で全国優勝の快挙を成し遂げた浅原璃子さん

昨年に引き続き、優秀な成績を収めた浅原さんですが、昨年の全国大会以降、思うような結果が出ない時期が続きました。それでも、限られた練習機会にはできる限り参加し、競技経験の豊富な方に自らアドバイスを求めるなど、実力アップに努めてきました。こうした努力が実を結び、今回の優勝につながりました。

今後は、10月３～４日に岡山県で開催される全日本ARDF競技大会に出場し、来年８月に韓国で開催される世界大会の出場者に選出されることを目指します。

（工学部顧問　杉山沙奈）

陸上競技部

松下君（２年）男子100㍍優勝
10秒27 東海高校新
勢い県ぶり 静岡38年


陸上男子100㍍で全国優勝した松下碩斗選手

８年度全国高校総体陸上競技大会で、２年生松下碩斗君が男子100㍍で優勝した。記録10秒27は静岡県高校新記録で東海高校新記録。静岡県は38年ぶりの優勝だ。松下君は200㍍でも準決勝に進出し、全国の舞台で素晴らしい活躍を見せた。

試合が行われた滋賀は、前年秋の国スポ男子少年B100㍍を制した思い入れのある場所だった。ここで再び頂きからの景色を見たいと、日頃から目標に向かって努力を積み重ねた。

松下君の強みは、何といっても並外れたメンタルの強さ。試合が近づくにつれ独自の方法で集中力を高め、最高のパフォーマンスを引き出した。

今後もこの結果に満足することなく、さらに走りに磨きをかけて、格上の選手たちに挑んでいくことを楽しみにしている。皆様の温かい声援を受け、今後の一層の活躍を期待したい。

（陸上競技部顧問　石代裕子）

弓道部　女子団体6位入賞


左から岡野、式守、遠藤、植竹、北川、羽角の各選手

創部21年目の快挙
県総体では悲願の初優勝

創部21年目で県高校総体初優勝をつかんだ弓道部女子団体が、和歌山県田辺市で開催された全国総体に出場し、見事に第６位入賞を果たしました。

予選を５位タイで決勝トーナメントに進み２つ勝って入賞するという目標を達成し、準々決勝では全力で戦いましたが惜敗し、その後の順位決定戦を高的中で乗り切り第６位に入賞しました。静高弓道部の洗練された射と明るい笑顔が大会の会場でも印象的でした。「正射必中・弓道を楽しむ・すべてに感謝する」の目標を実現できた大会でした。選手たちの最高の笑顔をみてください。

弓道部を応援してくださっている方々に感謝の気持ちでいっぱいです。最後に選手を紹介します。①岡野歩美２年②式守優莉子３年主将③遠藤綾２年④植竹莉子３年⑤北川夏希３年⑥羽角友花２年―です。（弓道部顧問・100期　倉沢樹央）

水泳部

高山君（２年）50㍍自由形
JOCジュニア大会出場



JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会に出場した髙山胡心選手

２年生の高山胡心君は、静岡高校発祥のクラブチーム「フリッパースイミングクラブ」にも所属し、現在もクラブでの活動と学校での練習に励んでいる。

今夏で閉鎖された静高プールの８月のプール納めの会には現役生として参加し、OBとともに最後の泳ぎを楽しみながら、長年にわたり選手を育んできたプールへの感謝を胸に、その歴史を惜しんだ。

競技面でも着実に力を伸ばしており、県高校総合体育大会では50㍍自由形で24秒23を記録し、県３位となって東海大会への出場を果たした。

さらに、同大会で16歳以下のJOCジュニアオリンピック夏季大会の標準記録を突破。

東海大会ではレベルの高い選手たちを相手に惜しくも決勝進出を逃したものの、８月26日には全国の同世代の選手が集うJOCジュニアオリンピックカップ夏季大会に出場した。

静岡高校水泳部のこれからを担う選手として、今後のさらなる活躍が期待される。

（水泳部顧問　冨田真永）

令和８年度　静中・静高同窓会総会
開催のご案内

2026年11月21日（土）
○14:30～受付開始　○15:00～総会・在校生表彰式
○16:00～記念講演　○17:00～懇親会

会場　グランディエールブケトーカイ 4階
静岡市葵区紺屋町 17-1（葵タワー内）TEL054-273-5225

幹事　主幹事　104期
副幹事　105期・114期

会費　10,000円 懇親会チケット代

○諸般の事情により、ご参加には事前予約をお願いします
○予約、チケット購入については各期幹事様にお問い合わせください

記念講演　連続起業体験記
－倒産寸前から３年で上場、そして二度目の起業へ

104期　小林 正樹（こばやし まさき）
株式会社イルカ　創業者／代表取締役
元株式会社オプト（現デジタルホールディングス）取締役 CFO

25才で創業役員としてITスタートアップの起業に参画し、一時は倒産寸前まで追い込まれながら事業ピボットによってV字回復し３年で上場をはたすなど文字通りジェットコースターのような経験をしたのち、折りたたみ自転車メーカーという全く異なる分野で「小さくてもグローバル（Small but global = Smobal）を掲げて二度目の起業にチャレンジしている。

1988年 静高卒業、慶応大学商学部入学 ／ 1992年 森ビル入社
1994年 森ビルの先輩らと４人で株式会社オプト設立（現デジタルホールディングス）
2004年 ジャスダック上場。取締役 CFO として上場準備責任者を務める
2008年 オプト退社、株式会社イルカ設立。折りたたみ自転車 iruka の開発を開始
2019年 10年の開発期間を経て iruka 発売。現在までの出荷実績 17ヶ国



開催に関するお問い合わせ ● 104期実行委員会 ● 070-3602-7335

教育講演会

財務官僚 国際派の歩み

――92期　浅川雅嗣氏

「国のために働きたい」と志願

アジア開銀総裁5年

卒業生が在校生に仕事や人生での体験や教訓を語る「教育講演会」は本年度、財務省に長く勤め、アジア開発銀行総裁など要職を歴任した92期の浅川雅嗣氏を講師に迎えた。浅川氏は財務省や国際機関で取り組んだ仕事を具体的に説明し、最後に「日本人が国際社会に貢献するためにはもう少し能動的に、自ら状況をつくり出すことが非常に大事だ」と強調した。

（編集委員）

皆さんこんにちは。浅川と申します。38年間、大蔵省・財務省に勤めておりました。その間に海外にも地方にも行きました。今日は、私が歩んだキャリアパス、財務官僚として、「こういう仕事が次から次へ降ってきて、こういう対応をして、こういうふうに解決してきた」というような話をすることで、皆さんに、中央官庁で働くイメージをつかんでいただけたらと思います。

ブラスバンドに熱

その前に、簡単な自己紹介ですが、92期で、クラブはブラスバンドです。かなりブラバンにはのめり込みました。大学は、法学部へ行こうか経済学部へ行こうか悩んだのですが、経済学のほうが国際的な広がりがあるかなと思って東大の文Ⅱへ行きました。

就職はですね、私は公のため、国のために働きたいと思っていたので、金融政策の手綱を握っていた大蔵省を受けて、1981年に入省しました。同期は24人でした。

入省後に米国留学

国家公務員になると、人事院管轄の国費留学制度というのがあって、試験に受かると留学できるんですね。私はその試験に受かり、83年からアメリカで2年勉強することができました。選んだのはアメリカのプリンストン大学で、公共政策大学院の経済学科に入りました。プログラムは2年間です。2年に上がる時の進級試験がすさまじい試験で、試験時間は8時間。ランチは学校がサンドイッチを提供して、それを食べながら問題を解くわけです。問題は1問だけ。問題用紙だけで10ページぐらいあって、問題を読むだけで1時間かかってしまうような試験でした。何とか合格したんですが、3割ぐらいの同級生は落ちたという、厳しい試験でしたね。



財務官僚として体験した仕事について講演する浅川雅嗣氏

税務署長を1年間

帰国後は2年間、主税局で国際租税課係長というのをやりました。国際課税、たとえば企業の利益に源泉地国課税と居住地国課税の両方がかかってしまう、いわゆる「二重課税」の排除に関わる仕事をしました。

その後、1年間広島の廿日市の税務署長をやり、本省に戻って、今度は課長補佐になるんですね。1988年7月に国際金融局の国際機構課の課長補佐。これでやっと一人前と認められます。係長まではまだまだ下働きで、課長補佐になってやっと一人前ということになります。

国際機構課というのは、国際通貨基金（IMF）やG7といった、国際マクロ経済を担当する部署です。当時の課長は黒田さんという前の日銀総裁でして、私が彼を補佐したということです。1つ覚えているのは、黒田課長と相談して、IMF・世銀総会で「ドル基軸体制を考え直してみないか」という提言を日本からしたことがあります。1988年ですから、まだユーロはありませんでした。ドイツのマルク、日本の円、それからアメリカのドル。「この三極の通貨体制を考えてみませんか」という提案をしたのです。当時、ドル基軸通貨体制に対する問題意識を具体的に発したのは日本だけだったと思います。

国際機関へも出向

その後、大蔵省国際金融局付の派遣職員としてアジア開発銀行に出向することになりました。アジア開発銀行というのは、独立した国際機関で、フィリピンのマニラに本部がある開発金融機関です。財務省では、いろんな国際機関を所管しています。IMF、世銀、アジア開発銀行。それ以外にも開発銀行を幾つか担当しています。そこに出向する機会が多いので、財務省は意外に国際派らしい仕事をする機会に恵まれている面があるんです。

そこで総裁補佐官として約3年間働き、1992年に帰国して、財務局と主計局で課長補佐を2年ずつやり、次は課長になるんですが、課長になるまでに数年空くんですね。その期間、私はワシントンにあるIMFに出向しました。1996年です。



生徒の質問に応じる浅川氏

国際通貨基金、IMFの協定第1条を読むと、「国際収支の失調を是正する機会を提供することにより、加盟国に安心感を与えること」と書いてあります。国によっては、マクロ経済が混乱し、通貨危機に陥ることがあるんですね。そのときに最後に出てくるのがIMFで、いろんな厳しい条件をつけてドルを貸します。厳しい経済調整プログラムを課すことによって、その国を立て直させる。「そのかわりに必要な資金は貸しますよ」というようなことをやっている国際機関です。

通貨危機から教訓

4年間IMFにいましたが、その間アジア通貨危機が起こりました。その中で、IMFだけに頼らなくても、アジア諸国の間で自立的に何か危機対応ができないだろうかという議論が起こってきました。具体的には、アジアは海外投資ではなくて国内投資を進める。ドル資本を積極的に入れるのではなくて、国内の貯蓄に依存する。そのためには国内に現地通貨建ての債券市場をつくって、直接域内の貯蓄を域内の投資に回すようにしたらどうかというようなことを教訓として学んだ4年間でした。

2000年にワシントンから帰国し、国際局国際収支課アジア通貨室長という課長ポストに戻りました。危機の際、IMFだけではなく各国が持っている外貨準備をASEAN+3（ASEAN10か国プラス日本・中国・韓国）の間で直接融通する、「チェンマイ・イニシアティブ」という仕組みをつくることに奔走しました。ただ、ポイントはやっぱりドルなんですね。先ほどドル基軸通貨体制の話をしましたけれども、結局最後に問題になるのはドルの流動性なんです。ドルのくびきからは逃れられないということを身にしみて分かったのが2008年に起こったリーマンショックでした。

異例の総理秘書官

リーマンショックが起きたときに、ちょうど福田内閣から麻生太郎内閣に替わったのです。リーマンショックが起こったのは2008年の9月15日。麻生内閣ができたのがその1週間後。内閣総理大臣には秘書官が5～6人いるんですけど、主立った省から官邸に人を出して総理を補佐するわけです。財務省からも人を出しますが、予算をやってる主計局から出すのが通常のパターンでした。ところが麻生内閣のときには、なんと私が行けと言われたのです。私は当時、国際金融局の総務課長を終えて副財務官というポストにいたのですが、国際畑が総理秘書官をやるということはほとんどなかったのでびっくりしました。後で聞いてみたら、リーマンショックで、100年に一度と言われたくらい世界経済にとって大きな激震が走って、それを克服するのに多分麻生内閣は相当苦労するだろうということで、「国際金融の実情を分かった人間を送ってほしい」と言われたらしくて、それで私が選ばれたということでした。

日本の提案が成果

当時、G20の首脳会議（サミットミーティング）というのができまして、サミットの場で何とか麻生総理に貢献していただこうということで、機能不全に陥っていた銀行への公的な資本注入をためらうべきではないことだとか、IMFに対する加盟国による出資総額を倍増して、IMFによって危機を乗り越えようじゃないかというような提案もしました。

結果的に見ると、2010年の後半ぐらいから、日本の提案に沿ったシナリオで世界経済は回復しました。このように、実は当時のG20に対して麻生総理がされた貢献は甚大なものだったと思いますが、残念ながら国内ではほとんどそういうことは報道されずに総選挙を迎えて、自民党が惨敗して下野することになるわけですね。それが2008年から2009年にかけての動きです。

アジア人初の議長

その後、私は再び副財務官に戻りましたが、その時にOECDの租税委員会の議長、アジア人として初めての議長になりました。任期は2011年から5年。「二重非課税」に対応するための議論を5年間かけてやりました。多国籍企業が源泉地国でも居住地国でも税金を払ってない、これを「二重非課税」と言っていますけれども、そういう行きすぎた租税回避の問題が起こっていたということです。

そして、2015年の11月、トルコでのG20の首脳会議で、この件に関する最終報告書を首脳に提出したんですね。15項目にわたって、いろんな国内法を変えたり条約を変えたりしなくちゃいけないというのがプロジェクトの結論です。15項目のうち14の行動計画については一応合意できました。合意できなかったのは、電子経済の課税上の課題への対応で、今日現在まだ議論がこれだけ残ってしまっています。その後、私は2015年に財務官となり、4年間務めて2019年に財務省を退官しました。2020年にアジア開発銀行の総裁に選出され、昨年帰国したところです。

「能動的動きが大事」

では、最後に一言だけ。日本人の特色として、周りの状況の変化に対応するのはうまいんだけれども、自ら状況をつくり出すというのは、あまり得意じゃないのですね。受け身なんですよ。これから国際社会に日本人がどんどん出て行って活躍されるといいと思うんですけれども、国際社会に貢献するためにはもう少し能動的に、いかにして自ら状況をつくり出すかということが非常に大事だと思いますので、そのことを申し上げて私の話を終わらせていただきます。

（92期　浅川雅嗣）